

男子

1 回戦

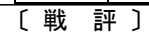
県立小祿 91
(沖縄県)

21	1st	30
25	2nd	20
22	3rd	18
23	4th	26

94 中部大学第一
(愛知県)

主審： 富島 健司

副審： 遠藤 幹之



第1P、両チームオールコートマンツーマンディフェンスで試合開始。先にリードをしたのは中部第一。中部第一は、#4の速攻や#8の高さを生かしてゴール下で得点をする。小椋はディフェンスのプレッシャーを強め、中部第一のミスを誘い速攻から得点を重ねる。しかし、中部第一は#7の連続3Pでリードを広げる。21対30で第1Pが終了。

第2P、小祿はオールコートマンツーマンプレスを仕掛け、中部第一のミスを読み#11の1対1や#12の速攻により得点を重ねる。悪い流れを切りたい中部第一はタイムアウトを取り、ディフェンスをゾーンに変える。しかし、小祿は、第2P残り1分のところで#5・#14の3Pで点差を縮め、46対50で前半を折り返した。

第3P、190cmを擁し高さで上回る中部第一は徹底してインサイドの#8にボールを集め、得点をしていく。対する小祿は#12にボールを集め、1対1を仕掛け中部第一のファウルを読み、フリースローで得点を重ねる。小祿は残り1分を切ったところで#11が中部第一のパスをスティールし、67対66の逆転に成功する。中部第一は終了間際#8がゴール下で得点をし、68対68の同点で第3Pを終えた。

第4P開始直後、中部第一は#13のシュートが決まりリードを奪う。小禄は#11のドライブインや#5の3Pで反撃をするが、中部第一#8の高さに苦しむ。それでも小禄はスピードを生かしたオフェンスで得点をし、残り3分のところで85対85の同点に追いつく。その後一進一退の攻防が続くが、中部第一#4・#7が小禄のファウルから得たフリースローを確実に決め、91対94で中部第一が初戦を突破した。

小祿の個人技の巧さとスピード、中部第一のアウトサイドとインサイドのバランスが取れたハイレベルなオ

戦評： 濱頭 連太郎

記録： 南陽高校